

臨床と生政治

〈医〉の社会学

(青土社 | 2024 年 10 月刊行 税込 ¥3,740)

美馬達哉先生 × 塚原東吾先生

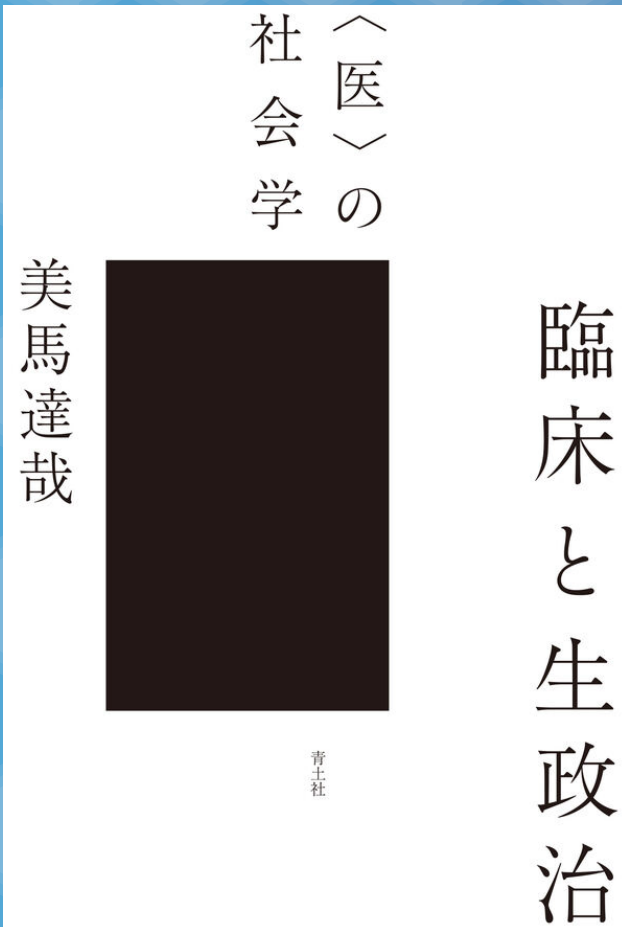
立命館大学大学院
先端総合学術研究科教授

神戸大学大学院
国際文化研究科教授

現場から浮かびあがる“医”の思想史。

医療の専門職化の過程は反精神医学の歴史といかに結びつくのか。ゲノム編集ツール・CRISPR-Cas9は何をもたらしているのか。ニューロダイバーシティの思想と医療・ケアをめぐるジレンマとは。職場のストレスチェックとセルフケアの関係とは何か。

臨床のあり方を問い直し、生政治の現在地をみつめる
16 講。



12.11

水

16:30~17:30

※延長の場合あり(最大 18:00) / 途中入退出可

会場：ブックセンターふらっと

【組合員企画】参加無料・申込不要 \ 当日会場へお越しください /



美馬 達哉 (みま たつや)

1966 年大阪府生まれ。京都大学大学院医学研究科博士課程修了。医学博士。現在、立命館大学大学院先端総合学術研究科教授。専門は医療社会学、脳科学。著書に『リスク化される身体—現代医療学と統治のテクノロジー』(青土社)、『〈病〉のスペクタクル—生権力の政治学』『脳のエシックス—脳神経倫理学入門』『感染症社会—アフターコロナの生政治』(人文書院)、『生を治める術としての近代医療—フーコー『監獄の誕生』を読み直す』(現代書館) などがある。



塚原 東吾 (つかはら とうご)

1961 年東京生まれ、城北高校、東京学芸大学卒、同(化学)修士修了、オランダ国費留学生、ライデン大学医学部博士号取得、ケンブリッジ大学・ニーダム研究所にてフェロー、東海大学文学部講師・助教授、神戸大学国際文化学部准教授、などを経て神戸大学大学院国際文化研究科教授。著書に『よくわかる現代科学技術史・STS』(ミネルヴァ書房)、『帝国日本の科学思想史』(勁草書房)、『科学機器の歴史：望遠鏡と顕微鏡』(日本評論社) などがある。